

## グループホーム移転計画

より安全な暮らしを実現するために

2017年から2018年にかけて相模原市のハザードマップ対象地域が広がり、現在「さんたらっぴ」(女性・5名定員)がある新戸地域が洪水・浸水地域の指定を受けました。そのため、洪水・浸水被害が予想される際の避難方法等を記載した計画書を作成し、相模原市に提出しました。これまで、相模原市から発令された避難命令は2回あり、その度に職員が複数回往復して利用者の皆さんと共に車で南区下溝にあるローズハイムに避難し、食料を持ち込み(食料がない時にはコンビニで調達し)、避難勧告が解かれるまでローズハイムのリビングで1、2泊したこともあります。このような経緯があり、より安全な場所への移転を検討する運びとなりました。

また、緑区大島にある「なるみハイツ」(女性・6名定員)では、交通の便も良くないことからここ数年は居室に空きが出ている状況でした。法人内の他のホームとも場所が離れているために見回り等の管理がしにくいといった課題も抱えていました。そのため、事前に決まっていた「さんたらっぴ」の移転計画を受け、「なるみハイツ」も緊急時を含め職員が対応しやすい体制を構築することを目的として、同時に移転することが決定していきました。

この他、南区豊町にある「まーぶる」(女性・7名定員)は、支援度の高い方が多く、宿直を配置していますが、既存の一戸建て住宅を借りたこともあり、皆さんの生活に合わせて何回も改築を重ねてきました。今回「さんたらっぴ」「なるみハイツ」の移転に合わせ、宿直職員の支援を必要とする数名の方に新ホームに移っていただき、更に生活しやすく支援しやすい環境を整えていくことになりました。「まーぶる」は6名定員のホームとして改修予定です。

新ホームを建設するにあたっていくつかの候補の場所が挙げられていましたが、その中で、第一に災害ハザードマップに入っていないこと、その他にも日中活動先・就労先への公共交通手段のアクセスの良さ、スーパーマーケット・コンビニ等が近くにあること、6名定員のホームを同一敷地内に2棟建設が可能な場所、駐車場スペース(一つのホームに対し2~3台分)が確保できること等の条件をもとに検討し、現在の場所(原当麻)に決定しました。

新グループホームの完成は2022年1月末を予定しています。利用者の皆様には、より安心・安全・便利な生活環境が提供できるよう、今後もきめ細やかな支援に取り組んでまいります。

(編集：広報委員会)



2022年1月完成予定のグループホーム  
「ひだまり」と「ひまわり」

## 編集後記

今号も法人で取り組んでいる人材育成について取材しましたが、私も業務を行う上で困ったり悩んだりすることがありますが、先輩職員がいることで安心して取り組んでいることを今回の取材をしていく中で改めて感じました。私自身も先輩職員のように人とのつながりを意識しながら関わっていきたいと思います。

次号でも法人が新たに取り組んでいる活動について紹介していきたいです。(広報委員会)

ご厚意に感謝申し上げます

寄付 馬嶋医院 様

福祉事業に対する温かいご理解を賜り、  
ご厚意に深く感謝申し上げます。



# 広報 すずらん

発行日：2022年1月1日 (平成34年創刊)

発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 松屋 直人 URL: <http://www.suzuran.or.jp>

所在地：〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-6-4 TEL: 042-745-8080

編集：広報委員会

2022年  
1月発行  
第82号

## 年頭のご挨拶

理事長 松屋 直人



明けましておめでとうございます。旧年中は皆様方から多大なご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

一昨年に引き続き、昨年も新型コロナに振り回された一年でした。利用者の皆様へ余暇活動等の自粛をお願いしたり、日本選手の活躍が光ったオリンピックやパラリンピックを心から楽しむことが出来なかったことは、大変残念でした。今年こそは、治療体制が整い、コロナを心配せずに通常の暮らしや活動ができるようになることを念願しています。

幸いなことに、12/10現在、当法人の利用者の皆様及び職員の新型コロナ感染者が発生しておらず、感染防止に対する皆様方の努力とご協力の賜物と、深く感謝申し上げます。今年も今しばらく、気を緩めることなく、感染防止対策を行ってまいりますので、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

さて、防災面や立地条件等に課題のあったホームすずらんの「なるみハイツ」と「さんたらっぴ」に代わる住居の建設工

事が、1月末を完成目標に、JR相模線原当麻駅近くで進行中です。2月から「ひだまり」と「ひまわり」として運営を開始する予定です。利用者の皆様には、引っ越し等でご不便をお掛けすることになりますが、防災面や通勤・通所時間等が改善されますので、ご理解とご協力を戴きます様お願い致します。

また、2024年度のフレンド移転とそれに伴う一部事業所の再整備計画等、着実に既存事業所の環境整備等を推進してまいります。

改善すべき課題は多々ありますが、皆様のご協力を仰ぎながら、職員とともどもこれからもより良いサービス提供に日々努力して参りたいと思っておりますので、引き続きご支援とご鞭撻のほど、宜しく申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご活躍とご多幸をお祈り申し上げます。

## 休日のお楽しみ！土曜活動

ワークセンターやまと 平林みなみ

昨年度から余暇活動については新型コロナウイルスの感染拡大により外出自粛が求められ、法人主催の行事やサークル活動、施設行事等の活動自粛が相次ぎました。日々仕事を頑張り、休日は余暇活動に参加する事でリフレッシュしていた方々は気分転換の機会が減ってしまいました。その結果、徐々に落ち着かない様子の方が増えてきた事や、余暇活動の有無について職員へ質問する方も多くなった事から、利用者の方にとって余暇活動がいかに重要であったか改めて認識しました。

コロナ禍であっても、少しでも利用者の皆さんが楽しめる場を作りたいと、ワークセンターやまとでは昨年度下期より外出行事ではなく、施設内で行う土曜企画として『フリースペース』を試験的に取り入れました。今年度は好評だった事を受け隔月で開催しています。活動内容は主に創作活動を行い、皆さんが興味を持ちやすいように季節ならではの物や、普段使いができる物を作っています。去年はクリスマスリースやプレスレット作成、今年度はハンドクリーム作り、9月には現在



の生活に必要な不可欠なマスクを入れるマスクケース作りをしました。活動時は、しっかり換気をしながらソーシャルディスタンスを保つ等、感染予防に努めています。活動では日々の作業訓練とは違い、楽しそうな表情を浮かべる参加者の方々と見ると、活動制限が多く難しい事もある中でも開催して良かったと感じています。今後も、利用者の皆さんの安全を確保しつつ毎日の仕事のモチベーションとなるような楽しい余暇活動を提供していきたいと考えています。



# 特集 人材育成 (育成者支援)

今号では、人材育成の育成者支援にスポットを当てご紹介します。  
前号でご紹介した中堅職員に支援サービス委員会の委員長を任せる取り組みについて、補佐役から現在の委員会の様子について聞きました。

- ① 今年度から委員長補佐という体制が導入されたことについて、自分が委員長として進めていた時と比較して感じる点は？
- ② 補佐役としてどのようなことを意識していますか？
- ③ 関わる上で新たな気づきはありましたか？  
また、今後意識していきたいことはありますか？



イベント委員会 補佐役  
野中 義弘  
入職18年目

過去に経験した委員会  
余暇支援委員会 委員長  
イベント委員会 委員長



余暇支援委員会 補佐役  
辰口 大樹  
入職20年目

過去に経験した委員会  
安全衛生委員会 委員長  
余暇支援委員会 委員長

① 委員長補佐という体制がなかった頃は、委員会統括に相談をすることが常にありました。前任の委員長に尋ねることもありましたが、該当の委員会を離れてしまっている状況を鑑みると相談することに躊躇してしまう場面もあったと思います。新たな体制では、委員長経験者が補佐という形で委員会に残ることで年度をまたいだ繋がりも保て、また委員会のメンバーが大きく入れ替わっても継続した活動ができると思っています。

② 年度初めから数回は、事前に定例会の議題をどうするか、また進行をどのようにしていくかの打ち合わせを委員長と行いました。また委員会の中での意見は最後に述べるようにしています。

③ 前委員長ということで、発言がトップダウンになってしまわないよう後方に控えたポジションでありたいと思っています。イベント委員会のこれまでの企画であるサロンコンサート、フェスタすずらん、クリスマスライブがコロナ禍により中止せざるを得なくなりました。イベント委員会の活動目的である地域交流・貢献を踏まえた with コロナでの企画を委員長、委員会メンバーで話し合いました。その際、フレッシュな意見が活発に交わされました。委員会メンバーが大きく入れ替わることで新たな発想が生まれていると思います。定期的に委員長の交代があっても補佐役として残っていくことで、本筋に揺るぎのない新しい企画、活動となっていくだろうと感じています。

① 昨年はコロナ禍の影響もあり、余暇支援活動自体が難しい期間もあったため、特に今まで委員を経験していないメンバーにとっては余暇活動に関して深く理解することが難しい面もあったと思います。しかし、委員長の経験があり、なおかつ、普段は余暇活動の連絡拠点を担当している自分が補佐役として委員会に参加することで、その都度メンバーからの質問への応答・助言を適切に行うことができたり、継続的な取り組みが可能となっていると思います。

② 活動中止となる期間もあった為、これまでの活動内容や状況についての説明を行い、委員からの意見が多く出ること、円滑に進行ができるよう意識して助言しています。

③ 今年度からは徐々に活動も再開され、実際に現場を見て体験する事で、委員長含め委員からの活発な意見等が多く出てきています。今後は、コロナ終息が見えない中、参加者が安全に楽しく活動ができるよう改善できるところは改善を行っていきたいです。また、次年度以降に向けた新規余暇活動の立ち上げに関しても、安全面、活動方法や会場確保等、自身の経験を活かして助言をしていきたいです。

.....

2名の委員長補佐からお話を聞き、昨年度までの体制と比べ、年度をまたいでも委員会活動としての繋がりが持てること、今回のサポート体制を作ったことで委員会活動が活発になってきていることが取材をとおして分かりました。新人・中堅・育成者どの立場の職員もお互いが気付きをとおして成長する機会にするため、現在の取り組みを継続して行きます。



(編集：広報委員会)

# 地域に愛されるお店を目指して新商品開発!

すずらんの家は、焼き菓子の製造・販売を行う福祉的就労の場として活動している事業所です。  
今回は焼き菓子の新商品の開発についてすずらんの家 野中所長にお話を伺いました。



新商品開発に至った経緯は？

これまでは定期的に期間限定の商品を販売したり、季節的なプラスアルファの楽しさを提供したりしてきました。すずらんの家の菓子をよりお客様に愛していただくためにはどうすれば良いかと検討し、新規のお客様の獲得、お得意様の買い物の選択の幅を広げることを目的として新商品開発に取り組みました。菓子作りは非常に難しいものではありますが、日々の積み重ねで製造能力も向上し、安定して品質の良い商品を作ることが出来るようになりました。



新商品を開発する上で工夫した点は？

日頃からテレビ、雑誌などのメディアやデバ地下などを気にしてトレンドを探り、販売するターゲット層や地域の嗜好性を考えることを行っています。また、食品ロス観点から既存の商品で使用している食品や資材を活用するよう工夫しました。



新商品を開発するうえで苦労した点は？

また、どのように改善してきましたか？  
材料にこだわりつつも利益を出さなくてはならない中で、実際にお客様の興味を引き、購入やリピートに繋げていくことは難しいです。昨春の期間限定商品として「フランボワーズシフォンケーキ」を販売しました。春という季節にちなんで桜色の商品を検討しました。前述にある食品ロスの観点からも、既に商品化しているフランボワーズクッキーの原材料を使い春色のシフォンケーキとして誕生しました。販売が始まるとお客様からの反応が良く、期間限定商品からレギュラー商品にラインナップした良い例でもあります。新商品は試作を重ねたのち、法人内で試食会を行っています。個々の嗜好もあり感想は様々ですが、品質(硬さ、粉っぽさ、風味が足りないなど)についての評価には対応、検討、修正を行っています。



今後の目標等は？

- ① 利用者の皆さんが製造スタッフとしてかわる作業をさらに増やすこと。
- ② 品質の維持と向上を含んだ職員のスキルアップ。  
コロナ禍によってイベント販売会や高齢者施設などへの移動販売も休止などが続いているため、準備期間として有効に時間を費やしていきたいと考えています。



すずらんの家のアピールポイントは？

粉の計量、ミキシング、生地成形、オープン、ラッピング、片付け、製造過程の全風景をガラス越しに見ることが出来ます。「焼きたて」「嬉しい」と喜び、感謝したり、また「そうか・・・」と反省することの繰り返しの毎日であります。  
自分たちが作った商品をお客様が買い上げいただく場面を実際に見るのは、製造する利用者の皆さんにとって大きな喜び、励みになります。まだ「すずらんの家の菓子」を未経験の方は、まずはクッキーの小袋からいかがでしょうか？きっと気に入っていただけます！販売会の中止や移動販売に制限がある昨今、店頭へのご来店をお待ちしています。

.....

このようにすずらんの家では商品開発に向けたアイデア、食品ロスの削減等、様々な取り組みを重ねながら、開発を行っています。ギフトセットや記念品などのご注文も賜りますのでお気軽にお問い合わせください。

所在地：相模原市南区新磯野 2-1 1-5 ドームビル1F  
TEL:042-747-2418  
<https://www.suzuran.or.jp/suzurancake/suzurancake.html>  
(編集：広報委員会)